

「なぜ勉強しなければならないの？」と子どもに聞かれたら！



学校教育目標の中に「いつも明るい元気な吉田っ子」というフレーズがありますが、いつも明るく元気であるためには、心も身体も健康であることが必要であると誰もが納得することだと思います。また、いつも明るく元気であるためには、夢があり、学ぶことが楽しく、学ぶ意義を理解していることが大切かと思えます。

しかし、子どもたちは、ときどきこう尋ねてきます、「先生、その勉強は、将来役にたつことなんですか？」と。そこで、子どもに「なぜ勉強しなければならないの？」と聞かれたら、どう答えればよいか日頃から考えておけば、慌てることがないと思いますので、記事を読んで参考にしてみてもいいのではないでしょうか。

はじめに、小学校低学年の子供たちに向けた伝え方です。ある調査によると、低学年の子には「大きくなったら何になりたい？」「どうやったらなれるかな？一緒に考えてみようよ」という感じで「夢をかなえるために勉強するんだよ」と伝えれば良いという意見が多かったそうです。また、「運動しないと体の筋肉が成長しないように、脳みそも使わないと成長しないから、勉強することで脳みそを成長させてるんだよ。」という言い方も納得してくれるようです。まとめると、

- ・夢を叶えるためにはがんばって勉強する必要があること
- ・今まで知らなかった事や分からなかった事が分かるようになると、すごく面白いよということ
- ・勉強に対してワクワクするようなポジティブなイメージを持たせる事



小学校高学年や中学生には、

- ・人生を自分で切り開いていくための力を身に付けるため
- ・人生の大事な場面に直面したとき、自分で判断し、ベストな「選択」ができる力を身に付けるため
- ・勉強を通じて「集中力」「考える力」「情報を正しく読み取る力」を身に付けるため
- ・「努力する力」「あきらめない力」を身につけるため

百マス計算を考案した立命館大学教育開発推進機構教授 陰山英男さんの名言

人間の精神力の根源は、思い出です。とくに子供の頃の思い出は、大人になってからも大きく影響します。社会に出て壁にぶつかったとしても、「あのときも、できそうもなかったことをやり遂げたじゃないか」という思い出があれば乗り越えられる。学力とは、つまるところ「人生を強く生き抜く力」や「苦勞を耐えて乗り越える力」だと私は考えています。それを体験的に身につけることこそ、学校で勉強をする意味なのだとと言えます。

ここまで、話を進めてきて感じることは、「なぜ勉強しなければいけないの？」という質問には、これだという一つの正解はない課題のようです。いろいろな回答を調べていくうちに、あるお母さんのコメントにたどり着きました。

「お母さんはね…」と答えてくれることが、子どもはいちばん嬉しいと思います。だから、私は、どんな素晴らしい回答を返すよりも、信頼している人が「私の場合はね…」と自分の経験をもとにしっかりと答えてくれる。そのことによりも意味があるのだなと感じます。

この対応は、「愛情」がこもっている回答と思いましたので、最後に記します。

4月26日 1・2年生の交通安全教室

4月26日(木)は、1・2年生対象で交通安全教室がありました。安全な登下校ができるように、また、普段から交通安全に気をつけるように、歩き方や危険を予測することの大切さを学習しました。

1・2年生が合同のグループに分かれて、学校→公民館前→鳥総神社→公民館前→JA南蛇井→南蛇井郵便局→南蛇井派出所→学校まで歩きました。見えない角から自動車や自転車がでてこないか、青信号でも左右の安全を確認してから横断するなど、100%の安全確認ではなく、120%以上の安全確認を心がけるよう意識をたかめました。



5月2日 全学年対象の交通安全教室と3・4年自転車教室

5月2日(水)は、全学年対象の交通安全教室がありました。はじめに6年生に交通安全少年団の認証式があり、富岡警察署の時沢様から一人一人に団員証を渡してもらいました。

安全教室では、ダミー人形と車が時速40kmでぶつかる実験をしました。人形とはいえ、とてもかわいそうです。小さい子どもたちには、ちょっと衝撃が大きかったかもしれません。

次に内輪差の実験をしました。交差点の一番先の角に立っているとトラックなどの大型車が左折してくるとき、内輪差で巻き込まれてしまうということを理解してもらうために、コーンを使って実験しました。

最後に、3・4年生は、自転車の安全な乗り方について、実際に練習しました。校庭に書いた道路や信号機を使って、安全に自転車がのれるように一人4回くらい練習しました。



花いっぱいの学校づくり

今年度、学校を花いっぱいにして考えています。ノートルダム清心学園理事長の故渡部和子さんの著書「置かれた場所で咲きなさい」から、花をテーマにしました。「児童・教職員一人一人が花です。種を蒔き、水をあげ、花を咲かせ、その美しさや香りで人を癒やす。」ことができればいいなと考えます。また、花は「華」です。「あの人には華がある」という使い方をします。華がある人を育てたいと思います。

4年生が、「花」という文字を書写の時間に書きました。今は、小さな花でも、いつか大輪の花(華)になれ。



6年生の学級目標、「下級生の心にたねをまき、花いっぱいの学校にしよう！」あいさつ、責任、笑顔、思いやり、返事、自分から、etc

